

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

平成28年 6月 2日

番地17

提出者 〒 371-0103
住所 群馬県前橋市富士見町小暮1588

氏名 三山アドコス生コン株式会社
代表取締役 高木康夫
電話番号 027-289-2182

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	三山アドコス生コン株式会社 前橋工場
事業場の所在地	群馬県前橋市天川大島町1347
計画期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

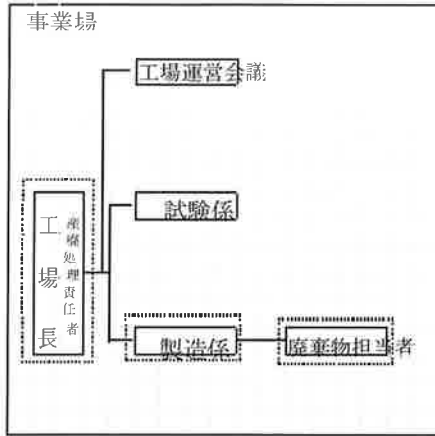
①事業の種類	E21 窯業・土石製品製造業
②事業の規模	27年実績 生産量(生コンクリート) 35,423 m ³ 売上金額 4.3億円
③従業員数	6名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	

（日本工業規格



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



廃棄物処理責任者	所属：前橋工場 工場長
廃棄物担当	所属：前橋工場 製造課長
工場運営会議	・廃棄物処理に関する検討 ・廃棄物の発生・制、再生利用方法の検討、適正処理の監視等、運営上必要な事項を検討する。
廃棄物処理責任者	・廃棄物処理計画の作成 ・廃棄物処理状況の把握と改善策の検討 ・廃棄物処理に関する各種事項の決定 ・監督官庁への各種報告 ・社員に対する教育 ・その他関係する事項
廃棄物担当者	・産業廃棄物管理票の交付 ・産業廃棄物の管理

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（27年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	排出量	4,082 t	1,288 t
	(これまでに実施した取組) 発生要因の調査(納入したが不要になり持ち帰った生コンクリート(以下残コン))		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	排出量	3,200 t	1,000 t
	(今後実施する予定の取組) 残コンを利用したブロックの作成(減量対策) 購入者へ残コン発生抑制のアピール		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 26 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	132 t	t
	(これまでに実施した取組) コンクリートブロックの作成		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	200 t	t
	(今後実施する予定の取組) コンクリートブロックを作成		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
①現状	【前年度（ 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t
	(今後実施する予定の取組)	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
①現状	【前年度（ 27 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	全処理委託量	3,950 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	3,950 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	(これまでに実施した取組)	
処理依頼先との契約締結 複数業者(現状2業者)への依頼		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	全処理委託量	3000 t	1,000 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	3000 t	1,000 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組)			
産業廃棄物の減量に向け社内・社外に対する啓蒙を推進する。			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。

平成: 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。